

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第4区分

【発行日】平成25年7月18日(2013.7.18)

【公開番号】特開2013-112869(P2013-112869A)

【公開日】平成25年6月10日(2013.6.10)

【年通号数】公開・登録公報2013-029

【出願番号】特願2011-261307(P2011-261307)

【国際特許分類】

C 22 C 38/00 (2006.01)

B 21 B 25/04 (2006.01)

C 21 D 9/00 (2006.01)

C 22 C 38/52 (2006.01)

C 22 C 38/60 (2006.01)

【F I】

C 22 C 38/00 301H

B 21 B 25/04 B

C 21 D 9/00 M

C 22 C 38/52

C 22 C 38/60

【手続補正書】

【提出日】平成25年5月22日(2013.5.22)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0044

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0044】

また、熱処理(C)は、従来の熱処理であり、加熱温度：970で4h保持したのち、平均で40/hの冷却速度で700まで冷却する第一段の熱処理と、加熱温度：970で4h保持したのち、40/hの平均冷却速度で500まで冷却する第二段の熱処理とを施す処理とした。

熱処理後に、プラグの断面組織を、ナイタール腐食して断面組織を光学顕微鏡(倍率：200倍)で観察し、ネット状スケール層の深さ方向の厚さを測定した。ネット状スケール層は、スケール中の地鉄の含有量が面積率で10～80%の範囲となるスケール層とした。

また、ネット状スケール層と地鉄(基材)との界面下の基材側(地鉄)組織を、同様に観察し、フェライト相の面積率を測定し、面積率で50%以上のフェライト相が存在するフェライト相を主体とする組織の厚さを測定した。なお、フェライト相を主体とする組織の厚さは、フェライト相界面が凹凸を呈しているため、maxとminを10点ずつ測定し、その平均値を50μm単位でまとめて表記した。また、フェライト相におけるフェライト粒を観察し、その最大長さを測定し、最大長さが1μm以上60μm以下のフェライト粒の粒数を測定した。測定範囲は、界面下300μm角の範囲とした。

【手続補正2】

【補正対象書類名】図面

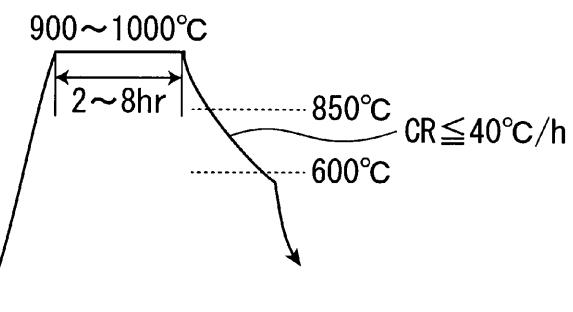
【補正対象項目名】図2

【補正方法】変更

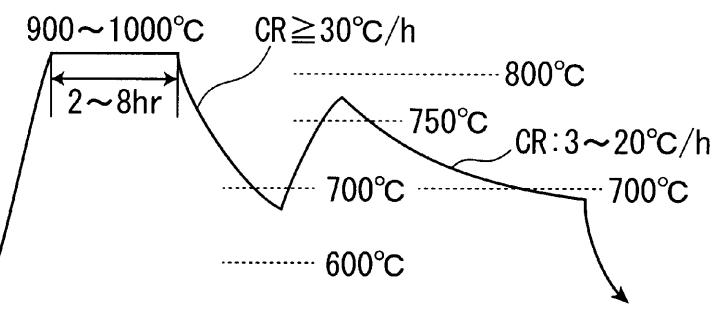
【補正の内容】

【図2】

(a)



(b)



(c)

